

2018年度事業報告書

(2018年9月1日から2019年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

I 事業活動の概況

フードバンク関西は、2019年8月31日をもって第16期会計年度を終了する事が出来ました。本年度は、神戸市東灘区深江本町の事務所兼倉庫に移転した事を通じて、どこまで当法人の活動を充実する事が出来るかが問われる1年になりました。

2018年12月19日に神戸市より認定NPO法人の再認定を得ました。今後5年間認定NPO法人として活動を継続できます。

また同じ12月の税制改正により「企業がフードバンク団体に余剰食品を寄付する場合、寄付に要する費用全額が損金算入できる」事になり、さらに2019年5月に「食品ロス削減推進法」が成立しました。これを受けて食品ロスの問題に真剣に取り組もうとする食品企業が増え、フードバンク関西を取り巻く環境も変化しています。

II 今年度の成果

1 ボランティアの作業環境の改善

2018年1月の事務所の移転から1年半を経て、最も改善したのは、ボランティアの作業環境です。本年度に入ってからカゴ車数を増やし、食品の搬入搬出作業をスムーズに行う事が可能になりました。さらに、本年3月に大型プレハブ式冷凍庫を購入し、冷凍食品の取扱量の増加に対応できるようになりました。

2 神戸市環境局からの「フードドライブ啓発等業務」委託

神戸市では環境局主導で、2018年度から家庭から排出される食品ロス削減の取り組みとして、神戸市内量販店14店舗での毎月定期的にフードドライブを実施し、当法人は集まった食品を福祉的に活用する部分で神戸市、量販店と協働してきました。

この協働の形の発展として、神戸市が全区にフードドライブを展開するのに合わせて2019年6月「神戸市フードドライブ啓発等業務委託」の契約を交わすに至りました。業務内容は、

- ①食品ロス削減とフードドライブの広報ツールの作成、啓発イベントの実施、
- ②回収食品の検品と報告、
- ③回収食品の福祉的な活用です。

当法人が行政から委託事業を引き受けるのは、今回が初めてです。

3 企業のプロジェクトへの直接参加

本年度、企業が「余剰食品の提供」から一歩踏み出して、プロジェクトに直接参加するという形で係わって下さるようになりました。

一つ目は、2018年11月から株式会社神戸物産が、要支援母子家庭に宅配で食品を届ける「子ども元気ネットワーク」事業で、「神戸物産からのプレゼント」として、通常フードバンクには集まりにくいレトルト食品や魚缶詰等の正規商品を毎月世帯数分、寄付して下さるようになりました。

二つ目は、12月から「兵庫子ども食堂ネットワーク」への参加という形で、やはり神戸物産が毎月1回、ネットワーク会員の子ども食堂に出向き、主催者と協働して子ども食堂の運営に携わるというものです。内容は、献立立案、必要食材全部の提供、社員ボランティアの当日参加という形で、調理、食堂開催、子ども達との交流に直接関わり

ます。子ども食堂主催者は、準備と当日の運営を食品のプロと一緒にする事で技術の取得やアドバイスを受けることが出来、集まる子ども達はいつもと違う大人達と出会い、参加社員の皆さんも職場とは違う場での体験と出会いを楽しんでおられます。

さらに、2019年6月から石光商事株式会社も、毎月1回正規商品を子ども食堂の主菜用食材として提供を開始して下さいました。

三つ目は、今年4月から、石光商事が毎週月曜日の量販店からの食品引き取りと福祉施設への配送を会社チームとして引き受けて下さるようになりました。デリバリー担当ボランティア不足の折、大変ありがたい直接参加です。

このような形で、企業と当法人が連携してプロジェクトの実施ができるようになった事は画期的で、当法人に新しい可能性が開けたと考えています。さらに、より多くの企業や個人の皆様との積極的な連携や協働によって、社会的弱者への支援、災害時の被災者支援等、いろいろな事業が展開できるかもしれません。

III 2018年度の各事業の報告

当法人は、企業や個人から、「商品としての価値はありながら流通から外された、あるいは家庭で使いきれないが、食べ物としては安全で美味しく全く問題のない食品」を回収し、それらの食品を下記の3つのプロジェクト、即ち、「福祉団体への定期的分配」、「食のセーフティネット」、「子ども元気ネットワーク」を通じて、支援を必要とする人達への無償分配を実施しています。食品の回収と、それら集めた食品の活用について、さらに当法人の運営について、下記にまとめて報告します。

(1) 食品の回収状況

①取扱食品量

本年度は、新たに14の食品関連企業と合意書をかわし、15企業と災害備蓄食品の提供に関する確認書の交換を行いました。これにより本年度中に食品の提供を受けた食品関連企業・法人数は84社、また災害備蓄食品の提供は、企業、行政も含めて40団体でした。取扱食品総合計量は201.5トンで前年度より24.5トン減少しました。

本年度の取扱食品の提供者数、引き取り量、全体への割合は下記の表の通りです。

入庫明細	企業・団体数・回数	引取重量 kg	全体に対する割合
食品関連企業・法人	84社 (1355回)	142,342	70.6%
災害備蓄食品旧品	40団体	9,713	4.8%
フードドライブ	46団体 (215回)	8,370	4.2%
他のフードバンク	3団体	30,349	15.1%
個人	752件	10,770	5.3%
	合計	201,544	100.0%

②取扱食品の種類

本年度、「ごはんのおかず」になる食材の取扱量を増やすべく、渉外担当チームが主食副食食材を製造する企業への働きかけを積極的に行いました。その成果として印南養鶏業組合からの鶏肉加工品をはじめとして「おかず」食材を扱う企業との取引が増加し、タンパク質食材取扱量が増えました。

昨年に続いて、大西農園からの規格外でも良質で美味しいトマトを3.8トン受領し、播磨社会復帰促進センターからの引き取り量も6.5トンとなる等、生鮮野菜の取扱量が増加しました。

お米については企業、個人からの提供量が減り、5月、6月には福祉団体へのお米の

提供を休止せざるを得ない状況になり、8月にセカンドハーベスト名古屋から630キロのお米の支援を受けて、やっと秋の収穫期まで繋ぐ事態になりました。母子世帯や困窮する個人への米の提供は継続できましたが、今後、米の安定確保が重要課題です。

取扱食品の種類とその割合を下記の表にまとめました。また、今までは取扱量が多かったペットボトル飲料や災害備蓄用の保存水の扱いを必要量のみ受け入れる事とし減らしました。この減少が総取引量の数値に現れました。

食品の種類と取扱い量の割合

	重量kg	全体への割合%	備考
たんぱく質食品	9,031	4.48	チーズ、卵、肉、魚冷凍加工品
生鮮野菜	10,505	5.21	トマト、播磨復帰センターからの野菜
米	20,300	10.10	白米、玄米、もち米(α米含めず)
飲料	18,944	9.40	ペット飲料、保存水、ジュース類
その他の食品	142,764	70.81	上記以外の食品類
合計量	201,544	100.00	

生鮮野菜に関しては、個人とコストコから出る野菜類は加算されていない。

③フードドライブ

神戸市に続いて、2019年6月から西宮市環境局主導のフードドライブが西宮市内の量販店で毎月定期的実施され、当法人が回収食品を福祉的に活用する部分を引き受けています。結果としてフードドライブ回収食品の取扱量が昨年度と比して2.9トン増えました。回収された食品は、提供者が不特定多数の市民なので検品作業を丁寧に行う必要があります。毎週水曜日と第4火、木曜日、両市からの回収食品の検品と行政への報告までの作業を進めています。

④個人からの寄付

個人の皆様からの食品寄付は、本年度1年間で752件、重量は10.8トンでした。その内7.2トンはお米で、当法人のお米の重要な供給源となっています。

(2) 食品の福祉施設、団体への無償分配

当法人が寄贈を受けた食品を活用する、支援を必要とする人達を支える団体、福祉施設数は、子ども食堂を含めて、2018年度末現在で、124団体になりました。当法人が取り扱う食品量のほぼ8割がこの事業で活用されます。今期、新たに受け取り団体になった16団体の内、9団体が子ども食堂でした。

2019年1月に5年ぶりに「企業、受取団体、フードバンク関西との情報交換会」を開催しました。木口記念会館大会議室に、企業5社5名、受取団体16団体21名、当法人ボランティア24名が集まり、全体会、グループ討議共に活発な情報交換が出来ました。特に企業からの参加者に当法人の活動を具体的に理解していただく良い機会となりました。受取団体からは、提供食材の活用レシピなども紹介されました。参加者から「このような機会を継続してほしい」という要望を受け、ボランティア学生チームが企業、受取団体を繋ぐ「フードバンク関西通信」を作る事になり、3か月に一度の頻度で発行され、メール添付、郵送、手渡し等で関係者に配布されています。

(3) 食のセーフティネット事業

平成24年から着手した、一時的に困窮した市民への、行政との協働による「食のセーフティネット」事業では、事業協定を結んだ、3市と9社協、1民間事業所からの支

援要請を受けて、緊急に食支援を必要とする一般市民に対し、一人当たり1週間分の食糧を提供しています。支援要請件数は、毎年増加していますが、2018年度は656件、受益者数は1128人になり、昨年度に比して179件、405人の急激な増加となりました。

(4) 子ども元気ネットワーク事業

平成27年からスタートした複数のNPO等支援団体連携による貧困母子世帯を多面的に支援する「子ども元気ネットワーク」事業では、本年度、連携する団体を増やし支援世帯数60世帯を数値目標として会員数を増やす努力をしました。「NPO ケアット」、「伊丹深愛館」、「ファミリエ光」、「コーポ歌敷山」、「サン野菊」、「アウンジャ」、「しんぐるまざーすふおーらむ・神戸ウエスト」が新たな連携団体として加わり、8月末で相談事業を引き受ける団体が9団体になり、8月時点で支援世帯が57世帯になりました。生活相談事業は上記9団体が引き受け、衣服支援はNPOフリーヘルプ、定期的食支援をフードバンク関西が担っています。私達は各世帯に対し、1世帯当たり約25キロの食品を、月に1回、宅配で届け、原則として2年間継続します。

毎月届く食べ物がいっぱい詰まった段ボール箱は、子ども達には楽しみ、母親達には安心をもたらし、結果として親子がとても元気になるという「効果」を生み出します。実際には2年間の支援で「自立に至る」事は稀ですが、この期間に母親と子ども達が「大変だけど嬉しい事もある、頑張っていこう」という思いや他者への信頼を持てるようになる事が私達の願いです。

2019年4月から来年3月まで、「こども未来応援基金」から助成金を受領する事が出来たので支援世帯数の増加が可能になりました。来年度も支障なくこのプロジェクトを継続するため、今後更に食品の取扱量の増加と運営費の確保を図る必要があります。

新たな動きとしては、株式会社神戸物産が、子どもでも簡単に食事作りが出来るような正規商品を、このプロジェクトの支援世帯数分、毎月寄付して下さるようになり、さらに個人でも埼玉県のNさんが毎年2回、世帯数分の南魚沼産コシヒカリ5キロと贈答用菓子箱を送って下さいます。このような形で、企業、個人と当法人が連携して、力を合わせて子ども達を支え育てていく、外に開かれたプロジェクトとして機能し始めた事は素晴らしく、このチームで係わるボランティアにも大きな喜びです。

(5) 子ども食堂支援事業 兵庫こども食堂ネットワーク

子ども食堂は、子どもの貧困および共働き世帯、片親世帯の増加に伴う子どもたちの欠食や孤食を懸念して、「子ども達だけで行ける、無料または低価で食事を提供する場所」として各地で開設が始まりましたが、今や子ども達はもちろん、地域の大人や高齢者も含めた地域の交流拠点、第3の居場所として急速に増加しています。2019年調査では全国で約3700箇所となり、3年間で1.2倍にもなりました。

当法人は2016年4月より2019年3月までの3年間、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成を受け、「子ども食堂とフードバンクの連携モデルの構築」として子ども食堂支援プロジェクトを実施しました。

その中で、希望する子ども食堂に対して、当法人の受取り団体として食品を提供し、食材確保の下支えをするほか、2017年2月に34団体の登録で「兵庫こども食堂ネットワーク」を設立し、事務局を担ってきました。

兵庫こども食堂ネットワークは、情報の提供、子ども食堂間での横のつながりを作り、企業などからの支援の取り次ぎなどの役割を果たし、子ども食堂の運営力の強化に役立っています。2019年8月末時点での登録数は52団体、ネットワーク会議は本年度中に3回開催し、グループメールでの情報提供は随時行っています。

2019年2月26日、芦屋市呉川町の木口記念会館と芦屋市保健福祉センターにて「こども食堂シンポジウム」を開催しました。子ども食堂スタッフによる0円キッチン、4つの子ども食堂の活動紹介、子ども食堂運営者、支援側として企業の担当者、財団代表によるパネルディスカッションを行い、約200人の参加がありました。パネルディスカッションでは、子ども食堂を発展継続させるために支援の輪を広げることが必要で、そのためのネットワークの重要性が改めて認識されました。

2019年4月より、子ども食堂運営者の中から選出された代表、副代表を置く体制が整い、「兵庫こども食堂ネットワーク」として独り立ちする方向に進みつつあります。また、「全国こども食堂支援センターむすびえ」が設立され、当ネットワークも全国のネットワークに加入しました。今後は、地域の自治体単位でのネットワーク、全国のネットワークとの間の中間的なネットワークとして「兵庫こども食堂ネットワーク」の役割が期待されます。

(6) 広報活動

フードバンク関西の活動を、広く市民の皆様にお伝えし、ご理解とご支援を得るために広報活動は大変重要です。

① 映画「ゼロ円キッチン」上映とパネルディスカッションの開催

法人初めての試みとして、2018年10月28日、神戸アートビレッジセンター大ホールを会場に、一般市民を対象にした食品ロス削減と当法人の活動をアピールするイベント「フードロスについて考える映画ゼロ円キッチンの上映とトーク」を開催しました。ダーヴィッド・クロス監督のドキュメンタリー映画「ゼロ円キッチン」を上映し、続いて映画監督重江芳樹さんと当法人代表浅葉とのパネルトークを行いました。参加者は約100人、パネルトークでは質疑応答も活発で、参加者の関心の高さが伝わり、充実したイベントになりました。

② 第10回ラッフルキルト

2018年度も運営資金調達のためのイベントとして、第10回ラッフルキルトを実施しました。今回もキルトリーダー兵庫の先生方からのキルト作品、有名ホテルからの宿泊クーポン、お食事券、協賛企業からの食品ギフト等、豪華な賞品を整える事が出来ました。抽選会は12月5日午後7時からホテルモンレー大阪で開催した懇親会の席で実施しました。懇親会では母子生活支援施設ファミリエ光に、キルトリーダー兵庫の先生達からの合作作品が贈呈されました。ラッフル寄付の合計額は、543,000円で、運営費の一部として、大切に活用させていただきました。

③ 年次報告書・ニュースの発行、ホームページ

今年1月に昨年度の年次報告書を発行しました。また、当法人のニュースレター「フードバンク関西ニュース」39号、40号を発行しました。ニュースの発行部数は3000部、賛助会員その他関係者に1800部近くを郵送し、当法人の大切な情報提供ツールとなっています。

ホームページは、内容の更新が適切にできておらず、次年度の取り組み課題です。それを補うために、法人のFacebookをホームページからも閲覧できるようにしました。また、クレジットカードを使って簡単に寄付する仕組みも組み込みました。

④ 講演活動、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」でのアピール活動

昨年度1年間に12回の活動紹介の講演を行いました。毎回参加者の熱心な反応があ

りました。

イオン系列の量販店で毎月11日に実施されている「幸せの黄色いレシートキャンペーン」では登録を4店舗に増やし、店頭でのチラシ配布等、積極的に取り組みました。3月末に各店舗から届いたお買い物カードの合計金額は、226,658円分となり、日頃フードバンク事業では入手しにくい、魚缶詰、レトルト食品類を相当量購入することが出来ました。

IV フードバンク関西の運営費の調達

フードバンク事業は、企業や個人の方から食品の寄贈を受け、それらを支援を必要とする人達に無償分配するので、全く収益性がありません。従って、フードバンク関西では、活動を維持するための運営費を、活動に賛同して下さる賛助会員の年会費、一般市民や団体からの寄付そして助成金で賄っています。

(1) 賛助会員、個人・企業からの支援

本年度は、賛助会員からの年会費、一般の皆様からの寄付が、個人、法人を合わせて延538件で、フードバンク関西の年間運営費を支える大きな柱となりました。

(2) 助成金

本年度は、昨年10月に在日米国商工会（ACCJ）からの助成金、今年4月に神戸市助成金と子ども未来応援基金からの助成金を受けました。またパブリックリソース財団から個人からのクレジットカード寄付に基づく助成金を受けました。これらの助成金により運営費の過半の確保が出来、各事業に積極的に取り組むことが出来ました。

本年度の皆様からのご支援の明細を表にまとめました。

支援の種類	合計	個人		法人	
正会員会費	300,000 円	30 件	300,000 円	—	—
賛助会員会費	2,896,000 円	164 件	878,000 円	132 件	2,018,000 円
寄付・募金	7,275,245 円	215 件	3,399,684 円	27 件	3,875,561 円
ラッフル寄付	543,000 円	74 件	543,000 円	—	—
助成金	7,636,125 円	—	—	15 件	7,636,125 円
合計	18,650,370 円	483 件	5,120,684 円	174 件	13,529,686 円

(3) 主な支出項目と金額

2018 年度収入		2018 年度支出		
会費(正会員・賛助会員)	3,196,000 円	事業費	食品搬送費	1,644,193 円
一般寄付	7,818,245 円		交通費	1,368,130 円
助成金	7,636,125 円		消耗品費	1,096,145 円
			賃借料	2,779,200 円
その他の収益	977,078 円		その他の経費	4,759,172 円
		管理費		1,326,478 円
経常収入合計	19,627,448 円	経常支出合計		12,973,318 円
		経常収支差額		6,654,130 円

V フードバンク関西がかかえる問題点

(1) 運営費の確保

本年度は多くの皆様からのご支援、そして民間の助成金を得る事が出来、通常経費を

上回る収入を得ることが出来ました。クレジットカードを利用しての寄付については、ギブワンに加えて今年度からロボットペイメントを導入し、県外、外国在住者からの入金もある等、対象者が拡大しました。

しかしながら、事務所の賃借料や光熱費の増加で、経常経費の支出増加及び子ども元気ネットワークでの宅配料等の固定支出増加があるので、寄付、助成金等、継続性のない収入に依存するリスクを抱えています。多くの市民に当法人の活動を知っていただき、賛助会員として活動を支えていただく必要があります。負担は軽いけれども、たくさんの市民に支えられているフードバンク関西になる事が理想です。

(2) 食品の確保

本年度、5月から7月にかけて、米不足の問題が発生しました。行政からの支援要請を受けて1週間分の食品を手渡す「食のセーフティネット」事業や母子家庭への食支援「子ども元気ネットワーク」事業では、米を欠かす事が出来ません。その意味で、米を安定して確保する手段を緊急に講じる必要があります。

(3) ボランティアの確保

当法人ボランティアは年々増加し、登録数で90人を超えました。但し、月に1回以下の参加のボランティアも多く経験の蓄積が作れない事と食品搬送を担うデリバリー担当者の新規登録が少なく、デリバリー担当ボランティアの負担が大きくなっています。また、今後の事業継続を考え、役員の世界交代の準備を始めなくてはならない状況です。

VI 今後の展望

(1) フードバンク関西を取り巻く環境の変化

今年5月に「食品ロス削減推進法」が成立しました。今後は、民間企業も食品ロス削減にさらに真剣に取り組むことになる予想されます。この法律の施行により、どのような具体策が講じられるのか、その中で、フードバンク団体の立ち位置がどうなるのかは、まだ予測できません。企業の3分の1ルールの見直しをはじめとする食品ロス削減の努力の中で、フードバンク事業への食品の提供量の増減が見通せない状況です。

(2) 活動の福祉的意義の拡大

フードバンク関西では、今まで、食品ロス削減を活動趣旨の大きな部分として事業展開をしてきました。しかしここ数年、社会の格差の拡大や母子世帯の生活困窮の状態を知り具体的にに関わる機会が増えた事により、フードバンク事業の福祉的な意義が明確に認識できるようになりました。支援を必要とする人達が、自立や暮らしの再建を思考するためには、まず食べて心身の安心を得る事が必須条件で、それを支えるのがフードバンクではないかと考えます。

そのフードバンクの活動意義を実際に具体化するために、現在実施している食品の回収事業での取扱量の増加と内容の充実を図り、それと同時に、関連する企業に活動への直接参加も求めながら、「食のセーフティネット」の利用者の増加と「子ども元気ネットワーク」の母子世帯支援数の増加への対応を準備し、「兵庫こども食堂ネットワーク」を通じて「子ども食堂への支援」の充実をはかりたいと考えます。

私達フードバンク関西は、子ども達から高齢者まで、私達の誰もが、安心して暮らせる地域社会作りに、より多くの企業、団体の参加を促しつつ、貢献していきたいと考えます。ボランティア一同、皆様のご支援を背に受けて、努力を継続していきます。今後とも、フードバンク関西の活動に、ご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

VII フードバンク関西の概況

- 1 活動開始 2003年4月 法人設立 2004年1月26日
- 2 認定NPO法人の認定
国税庁からの認定 2007年11月19日 再認定 2009年10月19日
兵庫県からの認定 2013年12月27日
神戸市からの認定 2018年12月19日
- 3 主たる事務所 神戸市東灘区深江本町1丁目8-16-101
電話番号 078-855-7025 fax 番号 078-855-7028
メールアドレス info@foodbankkansai.org
ホームページ <https://foodbankkansai.org/>
- 4 役員
理事長 浅葉 めぐみ
副理事長 川崎 知浩 中島 真紀
理事 山本 茂 奥野 振一郎 西村 秀明
松尾 粒一 西口 信幸 曾我 智史
監事 大野 貞明
- 5 正会員 (敬称略 アイウエオ順)
秋本 道男 浅葉 めぐみ 芦高 康文
荒井 昌明 井坂 千代子 井上 正巳
上野 裕司 大野 貞明 奥野 振一郎
川崎 知浩 貴志 久美子 木下 忍
黒田 いつ子 島田 恒 田原 将行
近本 博文 中井 龍司 中島 真紀
西口 信幸 西村 秀明 馬場 一徳
深堀 潤子 松尾 粒一 松本 美佳子
向 貴美子 山岡 幸司 山岡 明子
山田 美智子 山地 昌子 山本 茂
(以上30名)